短 報

男性乳房部に発生した顆粒細胞腫の1例

盛岡臨床検査センター¹⁾, 岩手医科大学医学部第2病理²⁾

高橋 利成¹⁾ 高橋 一博¹⁾ 佐藤 孝²⁾ 門間 信博²⁾

I. はじめに

顆粒細胞腫は、比較的まれな軟部腫瘍で、舌、皮膚、乳腺、外陰部、消化管、呼吸器などに好発することが知られている^{1,2)}。今回、男性の乳房部に発生した顆粒細胞腫を経験し、その穿刺吸引細胞像を報告するとともに、乳腺細胞診における鑑別診断について考察した。

II. 症 例

49歳、男性。家族歴、既往歴に特記すべきことはない。左乳房腫瘍に気づき、平成4年2月27日県立病院外科を受診した。受診時、左乳房に大きさ1.5×2.0×1.5 cmの腫瘍を触れた。穿刺吸引細胞診を行い、その後、3月13日腫瘍摘出術を行った。

穿刺吸引細胞診所見：少量の乳管由来の細胞集塊を背景にして、多角形の細胞が集簇性ないし散在性に出現していた(写真1)。これらの細胞は類円形の核を有し、核の大小不同は軽度で、微細なクロマチンを有し、腫大した核小体を1個認めた。胞体は豊富で、細胞境界は不明瞭、好酸性に染まる細顆粒を密に容れていた。顆粒はPAS陽性、消化PAS陽性であった。

病理組織像：腫瘍は皮下脂肪組織に存在し、豊富な胞体を有する楕円形ないし多角形の腫瘍細胞の胞巣状の増生よりなっていた(写真2)。胞体には、好酸性細顆粒が充満しており、細顆粒は細胞診同様、PASおよび消化PAS陽性であった。顆粒細胞腫と診断し

写真1 穿刺細胞像。境界不明瞭な平面的配列の細胞集簇がみられ、胞体には好酸性に染まる顆粒を容れている (Pap. 染色, ×250)

写真2 病理組織像。豊富な胞体を有する楕円形ないし、多角形の腫瘍細胞が胞巣状に増生している。腫瘍細胞胞体内には好酸性細顆粒が充満している (H-E 染色, ×250)

A case of granular cell tumor in the male breast
Toshinari TAKAHASHI¹⁾, C.T., I.A.C., Kazuhiro TAKAHASHI¹⁾, C.T., J.S.C., Takashi SATOH²⁾, M.D., Nobuhiro MONMA²⁾, M.D.

¹⁾Division of Cytology, Morioka Clinical Laboratory Center
²⁾Department of Pathology, School of Medicine, Iwate Medical University

論文別刷請求先: ☎ 020 岩手県盛岡市紺屋町4の31 盛岡臨床検査センター細胞診室 高橋利成

平成5年1月14日受付

平成5年4月16日受理

た。なお、腫瘍の周囲には乳腺の組織はみられなかった。

免疫染色所見：穿刺吸引細胞診塗抹標本，およびパラフィン切片を用いて，S-100 蛋白の免疫染色を行った。腫瘍細胞胞体内の細顆粒は S-100 蛋白陽性であった。

III. 考 察

顆粒細胞腫は，1926 年に Abrikossoff³⁾ により筋芽腫性筋腫として初めて報告され，横紋筋由来と考えられていたが，最近では Schwann 細胞起源説が有力になってきている^{2,5)}。舌に最も多く発生するが，ほかに外陰部，消化管，呼吸器にも生じ，乳腺も好発部位のひとつとなっている^{1,2)}。乳腺に生じる顆粒細胞腫はマンモグラフィー上，乳癌と誤られやすく⁴⁾，本例も臨床医が強く carcinoma を疑っていた。

本疾患の細胞学的特徴は細胞質内に存在する豊富な好酸性の細顆粒である。顆粒は PAS 陽性，消化 PAS 陽性で，さらに S-100 蛋白陽性であった。細胞診断上，好酸性の細顆粒から考察すれば，乳房部に発生した顆粒細胞腫の場合，アポクリン化生細胞やアポクリ

ン癌との鑑別が問題となる。顆粒細胞腫の顆粒は PAS 陽性で，ジアスターゼで消化されず，また，胞体は S-100 蛋白陽性である⁵⁾。アポクリン顆粒は PAS 陽性でジアスターゼで消化される。S-100 蛋白は陰性である。乳腺には軟部腫瘍の発生もありうることを考慮し，細胞質内顆粒の性状を明確にし，有意の細胞異型のないことに注意すれば，細胞診から顆粒細胞腫の診断は可能であると考えられた。

文 献

- 1) 石川栄世・他：外科病理学，pp. 973～974，文光堂，東京，1990.
- 2) 板橋正幸：顆粒細胞腫，病理学キーワード（山口和克・他編），病理と臨床，9（増刊号）：257，1991.
- 3) Abrikossoff, J.: Über myome ausgehen von der quergestreiften willkuerlichen Muskulatur, Virchows Arch. (Pathol. Anat.), 260 : 215～233, 1926.
- 4) 坂本吾偉：乳腺取扱い規約に沿った腫瘍鑑別診断アトラス，p 98，文光堂，東京，1992.
- 5) Enzinger, F.M., Weiss, S.W.: Soft tissue tumors, pp. 757～765, C.V. Mosby, St. Louis, 1988.